

江の川に架かった夢の懸け橋

和田 浩

1. はじめに

江の川は、広島県山県郡北広島町阿佐山（1,218m）を源流とし、上流部は可愛（えの）川と呼ばれ、三次市にて馬洗（ばせん）川、西城川及び神野瀬（かんのせ）川を三方向より合わせ、狭窄部となって島根県に入り、出羽川などを合わせて江津市で日本海に注ぐ、流域3,900km²、幹川流路延長194kmの中国地方最大の一級河川である。その規模の大ききから「中国太郎」と呼ばれている。現在、上流域に土師ダム、鳴瀬堰、中流域に浜原ダムがある。ダムができる以前、明治から昭和初期にかけては三次から江津間を高瀬舟が往来し、江津は日本海沿岸の西廻り航路の寄港地であったため、流域は舟運、海運を通じて九州、北海道などと結びつき、賑わっていたと思われる。しかし、ダム開発や鉄道、道路の整備により人や物の輸送に活躍していた舟運も終わりを告げることとなった。

表1.1 江の川に架かる橋梁

番号	橋梁名	番号	橋梁名
1	江川橋	14	あけぼの大橋
2	新江の川橋	15	浜原大橋
3	松川橋	16	信喜橋
4	桜江大橋	17	都賀行橋
5	大貫橋	18	高梨大橋
6	川越大橋	19	大和大橋
7	鹿賀大橋	20	大浦橋
8	川下橋	21	都賀大橋
9	川本大橋	22	宇津井大橋
10	川本東大橋	23	両国橋
11	みなと橋	24	丹渡橋
12	栗原橋	25	三国橋
13	吾郷大橋		

現在、島根県側の江の川には、表1.1に示すように25橋の道路橋が架かっており、その形式も様々である。

今年度より江の川に架橋される橋梁について、その建設経緯、歴史的背景（後世への引き継ぎ）や周辺地域との関わりを整理するとともに、それらの活用方法を探る目的として「江の川橋梁群調査研究分科会」が発足した。

2. 活動内容

江の川沿いの道路は、河口より国道261号、主要地方道川本波多線、国道375号を通過して広島へと続いている。今年度は、美郷町役場より上流域である広島県境までに架橋されている橋梁の状況把握を目的として現地調査を行った。

10/19；参加者 林、幸前、井上、余村、和田（5名）

9：00 美郷町役場集合

9：00～17：30 広島県境～美郷町役場までの橋梁10橋を現地調査

現地調査では、ついつい桁下へ潜り込んでしまうため時間は超過気味！

途中、美郷町上川戸にある「創菜料理ゆるり」で昼食

3. 橋梁の概要

（1）現地調査の概要

美郷町は、平成16年10月1日、旧邑智町と旧大和村が合併し誕生した町である。

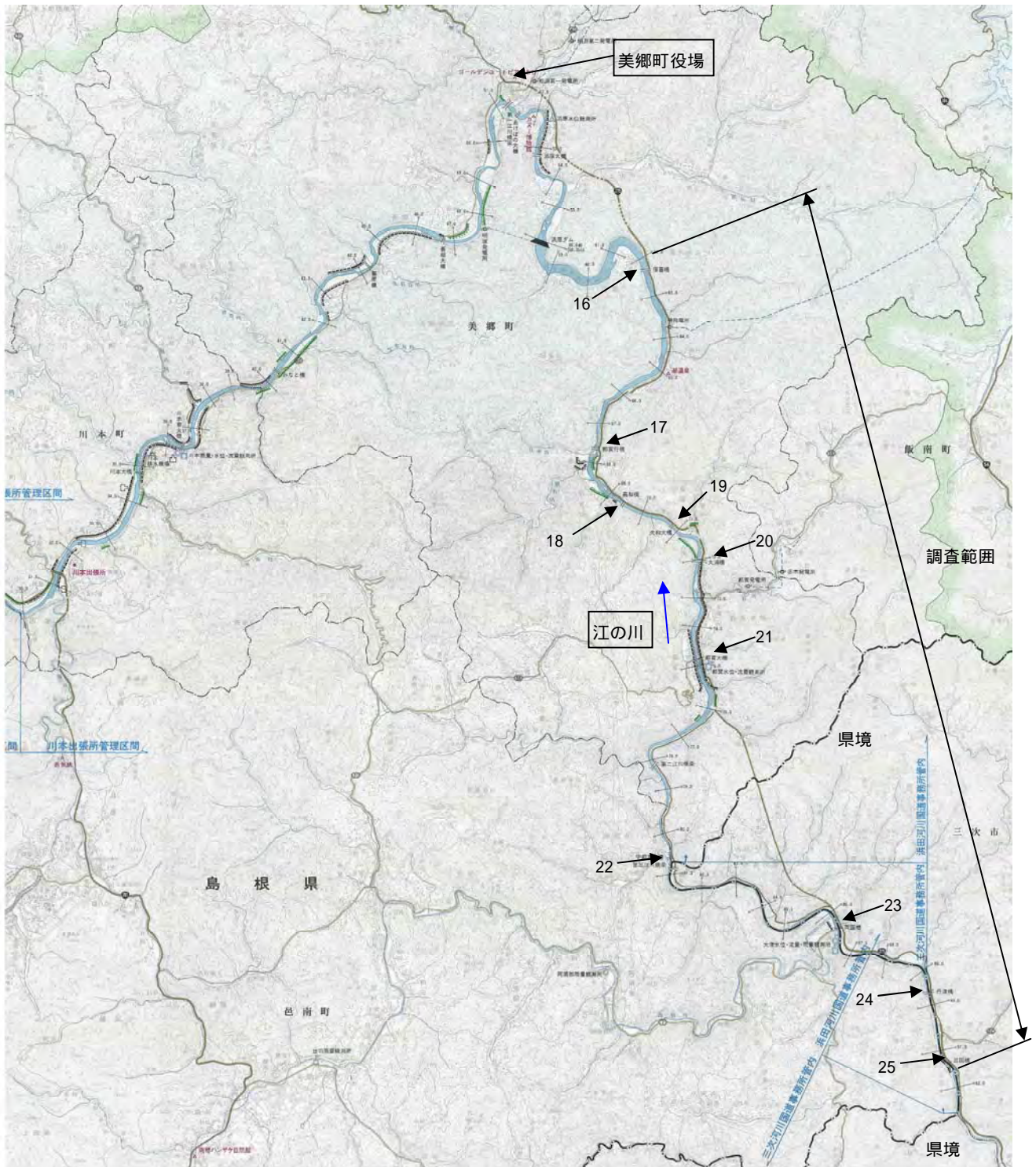
現地調査した橋梁の上部工形式と色を表3.1橋梁一覧表に示す。上部工形式は同じものがなく、色もまちまちではあるが架橋地点の周辺環境にマッチしており違和感がない。どの橋梁も周囲は両側が山、下が川、上が空と自然に囲まれた中にあるため、季節、天候、時間など訪れる度に違った表情を見せてくれるものと思われる。

表3.1 橋梁一覧表

橋梁名	架橋年	上部工形式	橋長	色	橋梁名	架橋年	上部工形式	橋長	色
16 しまばし 信喜橋	1979.3 S54年	 吊り橋	173	赤	21 都賀大橋	1978.3 S53年	 2径間トラスドラムランガー橋	※	赤
17 都賀行大橋	1973.3 S48年	 2径間下路式ランガー	※	黄	22 宇津井大橋	1991 H3年	 2径間連続鋼床版鉄桁橋	174	茶
18 高梨大橋	1985 S59年	 2径間連続斜張橋	158	茶	23 両国橋	1974 S49年	 2径間下路式ランガー	※	赤
19 大和大橋	2004.3 H15年	 下路式ハイプロローゼ桁橋	133	茶 耐候性	24 丹渡橋	1976 S51年	 1連下路式平行弦ワーレントラス橋	114	赤
20 大浦橋	1989 H元年	 下路式ニールセンローゼ橋	148	グ アイレ ット系 耐候性	25 三国橋	1974.1 2 S49年	 1連下路式ランガー	130	赤

※ 橋梁番号は、江の川河口からの連番を示す。
橋長が未記入の橋梁は、現時点では把握できていない。

今年度調査した橋梁は、下図の範囲である。



番号は各橋梁位置を示し、表 3.1 橋梁一覧表での番号と同じである。

図 3.1 今年度の現地調査範囲

「浜田河川国道事務所河川管内図」より

架橋年は古いもので都賀行大橋の1973年（昭和48年）、最も新しいもので大和大橋の2004年（平成15年）となっている。架け替えられた橋梁もあるだろうが、前述したように橋梁形式や径間割など多種多様であるため、技術者だけでなく一般の方々が見ても非常に楽しむことができる。その証拠に美郷町観光協会によると市町村合併前は、信喜橋から都賀大橋までの6橋に広島県三次市（？）の宇津井大橋を加えた7橋を「大和7橋」と呼び親しまれていたようだ。

現在では、「大和7橋」に対抗すべく「美郷12橋」として観光協会のホームページに美郷町内の下記橋梁が紹介されている。

「美郷12橋」は、信喜橋から都賀大橋までの6橋に湊橋、栗原橋、吾郷大橋、第一江川橋梁（三江線）、曙大橋、浜原大橋を加えたものを言う。

（2）橋梁の特色

概ね橋梁の袂には竣工記念碑が設置されており、建設当時の関係者名が記載されている。

宇都井大橋から上流域は、江の川の河川内に島根県と広島県の県境があり、橋梁の中心部にその標識が設置されている。その場合、橋梁の維持管理は期間を区切って島根県、広島県で交互に行われている。下記に両国橋での例を示す。



写真3.1 両国橋における標識

各橋梁において色々な特色があるが、ここでは信喜橋と大和大橋について記述する。

信喜橋（しきばし）

橋長173m、主塔間152m、幅員3mの吊橋で国道375号を跨ぐ橋梁である。

本橋の下流には浜原ダムがあるため、水位が上がっており流れもほとんどない。そのため、架橋地点は第37回国民体育大会（昭和57年）のカヌー競技の会場となり、今上天皇が皇太子の時に本橋からカヌー競技をご覧になったとの事である。

第12回しまね景観賞（2000年）で奨励賞を受賞しているように、川面に映る姿は美しい。



写真3.2 信喜橋の状況

大和大橋

橋長 133m、全幅員（車道部 6.5m 歩道部 2.5m）9.75m の耐候性鋼材を使用した下路式パイプローゼ桁橋である。パイプの直径は 1.20m あり見るものを圧倒する。



a) 圧倒するパイプ



b) 石碑（左岸側）



c) 石碑（左岸側）

写真 3.3 大和大橋の状況

2004年3月、緑資源機構（2007年度末、緑資源機構は廃止、現在は森林総合研究所内の森林農地整備センター）により緑資源幹線林道として建設され、本橋の完成に伴い、日野（鳥取県）-金城線（島根県）がつながることとなった。本路線の総延長は189kmで連結の悪かった国道や県道などの在来の公道を林道整備でつなぎ、1本の東西幹線となるように整備された。緑資源機構の整備区間は9工区55kmで、工事は1973年に着工され最後に残った大和区間（3.4km）の完成で全線がつながった。30年掛かってつなげた当時の人々の思いである「希望」と「未来」は、今も継続中なのだろうか？

(3) 沿川の状況

当該区間の江の川の右岸側沿いには、国道375号がほぼ並行に走っている。国道沿いの主要な施設としては、潮温泉、道の駅グリーンロード大和、川の駅常清（ジョウセイ）、江の川カヌー公園作木がある。また、三江線も同様に江の川沿いを走っており、橋梁の近くには駅が隣接している。



a) 川の駅常清



b) 川の駅内（中には高瀬舟）



c) 屋形船(インターネットより引用)

写真 3.4 沿川の施設

川の駅常清には、食事処があり、鮎の加工品を始めとして町内の産品を使ったお土産を販売しており、結構人々が立ち寄り利用されている感じである。

道の駅グリーンロード大和は、大浦橋の直上流に位置している。そのため本橋の全景を眺望するには絶好の場所にある。何か土産物でもと思ったのだが、川の駅に比べ規模も小さく品数もなかった。道路利用者の立ち寄りもあまりないのではないだろうか。

潮温泉大和荘では、江の川観光遊覧船として屋形船を遊覧コース（60分、120分）、貸切コース（90分）で運行しており、四季折々の風景を川面から眺めることができるようだ。

4. 今後の活動に向けて

今年度、現地調査した美郷町から上流域の10橋の中には、本文で紹介した信喜橋の他、大浦橋も「しまね景観賞（第1回 1993年）」を受賞していることから分かるようにデザイン的にも非常に魅力ある橋梁が多い。各橋梁の形式が異なるのは敢えて同じものとならないようにしたのではないだろうか？

維持管理を考慮すればコンクリート橋の選択肢もあったと思われるが、全て鋼橋が架かっている。経済性を重視すれば、河川の規模からすると3径間が標準的な径間割りであろうか？

大和大橋が架かった時の山陰中央新報（2004年3月25日）の記事によると、建設費が13億円要したということなので、 m^2 単価は110万円強となりかなり高価である。おそらく、他の橋梁についても同様のことが言えるのではないだろうか。

橋梁形式の選定理由は単に経済性だけではなく、色々な要因があったことを想わせる。

今年度の活動は、7月、8月の災害があったこともあり、現地調査しかできず建設経緯やエピソード等の調査までには至らなかった。

来年度以降は、下記に示すような活動を展開していければと思う。

- (1) 美郷町役場から下流域（河口まで）に架橋された橋梁の現地調査（現状把握）
- (2) 各橋梁の可能な範囲での既往図書（橋梁の基本諸元）の入手
- (3) 建設経緯や歴史的背景の掘り起こしと整理
- (4) 橋梁を利用した現地学習や講習会の実施
- (5) 橋梁と遊覧船やカヌーを利活用した地域おこしの提案

以上

【参考資料・文献】

浜田河川国道事務所河川管内図 浜田河川国道事務所

江の川水系河川整備基本方針 H19年11月 国土交通省河川局

http://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/gounokawa/gounokawa_plan/pdf/gouno.pdf

江の川水系河川整備基本方針の概要 三次河川国道事務所

http://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/river/r22_2.html

（一社）日本橋梁建設協会 橋の写真館

<http://www.jasbc.or.jp/photo/>

潮温泉大和荘 ホームページ

<http://daiwasou.jp/yakatabune/>

美郷町観光協会

<http://misato-kankou.com/>

web-sanin Local Hot News

<http://www.web-sanin.co.jp/orig/news6/4-0325a.htm>